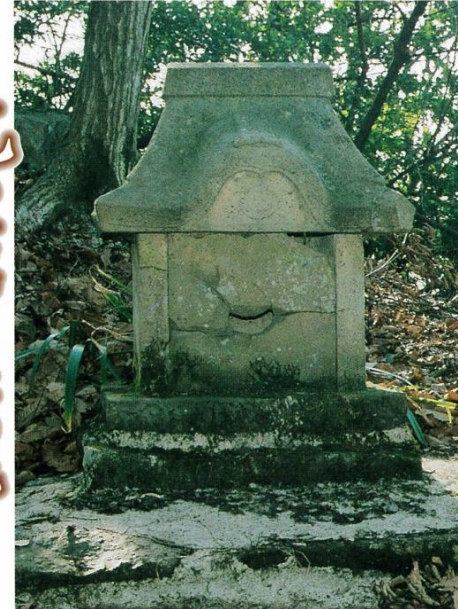


雨乞い信仰とため池



龍王祠

古来香川県は、干ばつは六年ごとに訪れると言われるほどで、「水は天から、神仏から授かるものである」という思想は讃岐の人々の揺るぎない信仰となつている。空海は、弘仁八年（八二八）仲多度郡琴南町御門淵で祈雨を行なつた他、弘仁十二年には朝廷の築池使として、今も農業用ため池として日本最大を誇る満濃池を修築した。

また、仁和四年（八八八）に、讃岐守菅原道真は、「臣の命を召し、讃岐二十万人の民を救い給え」と、七日間城山の神に祈雨を行なつた。

藩政時代にも度々、官民一体となつた降雨祈願は行なわれ、「もらい水」「もらい火」「川瀬待ち」「千束だき」等雨乞い神事は数多く伝承されていて、水利をめぐる「水げんか」の記録も多く、各地で竜神信仰が行なわれた。

県内に伝わる民俗芸能の殆どは「雨乞踊り」であり、「綾子踊」の他に有名なものとしては「滝宮念仏踊り」があり、これらは厳肅な神事として行なわれて来た。典型的な瀬戸内式気候である香川県は、全国にため池の多い県であり、昭和二十七年調査では一七、七八ヶ所（総面積二〇〇アル以上）を数える。

しかし、「四国はつ」の合言葉の下に立案された「吉野川総合開発計画」の環として、「四国三郎吉野川」の水を讃岐山脈を貫通して香川県へ導水する「香川用水」が十二年の歳月をかけて昭和五十六年に完成した。農業、工業、上水道に総合的に給水する「香川用水」は、県内の水不足を解消したが、それとともに雨乞い神事は衰退の途を辿ることになった。



加茂神社

佐文と加茂神社

仲南地区の北西部、金比羅宮のある象頭山の南西山麓に所在する。古代には「麻績村」と呼ばれ、琴平山周辺は忌部氏が住みつて麻の栽培が盛んであったが、麻を紡ぐ「麻績」から「あ」が除かれて佐文となったもの。

米、麦、タバコ、きゅうり等が盛んに栽培される他、タケノコは特産として京阪神へ出荷されている。

水不足の上に、小規模田が殆どを占める土地であったが、香川用水事業、農業構造改善事業により、地域全体が水利問題を解決した効率的な農地になった。

保存会と伝承活動

綾子踊伝承を担う佐文自治会は、仲南地区内では最大の自治会で、九つの小自治会から成る。地域の中心部に加茂神社があり、「綾子踊」の公開はこの境内で行なわれる。神社の背後には、雨乞い祈願の行なわれた竜王山がそびえる。



尾崎氏所有記録



綾子踊碑

まんのう町

まんのう町は、香川県仲多度郡の3町（満濃町、琴南町、仲南町）が、平成18年3月20日に合併して誕生した新町です。香川県南西部に位置し、面積は約194.33平方キロメートルになります。西の山間部には町名の由来にもなっている日本一の灌漑用ため池、『満濃池』をはじめ、約900ものため池が点在しています。町の南側には標高1,000メートルを超える竜王山、大川山を主峰とする讃岐山脈が連なり、そのふもとを県下で唯一の一级河川土器川が流れています。



お問い合わせ先 佐文綾子踊保存会 白川 正樹 ☎0877-73-3366 まんのう町教育委員会 生涯学習課 ☎0877-89-7020

● 参考文献 ● 「綾子踊の里 佐文誌」 昭和55年 佐文自治会発行

表紙写真：四国新聞平成8年8月26日掲載より



国指定重要無形民俗文化財(昭和51年指定)

あやこ おどり 綾子踊

綾子踊の起こり(伝承)

むかし、佐文七名といつて

七軒の豪族があつたころ、綾という女がいた。ある千天の年に、草木も枯死寸前となり、村人は非常に苦しんでいた。

ある日、諸国遍歴の僧に

綾が住民の苦しみを話したところ、僧は住民をあわれみ、

龍王に願いをこめて雨乞踊をすれば降雨疑いなしと教えた。

そこで村人を集め旅僧自ら芸司となり、綾夫婦の鉦、太鼓にあわせて踊ったところ、俄に一天かき曇り、滝の如く雨が降った。

それより千天の年には

毎年この踊りを行なうことを例としてきた。以来こうして綾が踊ってみると、

恵みの降雨があつたので、この踊りが雨乞踊となり、だれ言うことなく綾子の踊りとして現在に伝わっている。

なお、この時の僧は

弘法大師だと伝えられている。

佐文綾子踊保存会

